

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「これは何だろう」
光と色の出会い

<テーマの設定理由>

偶然発見した動く光が七色になっていたことから色への興味へとつながった。

2. 活動スケジュール

- 1, 光の発見（自然の光と人工的な光）
- 2, 色への興味
- 3, 絵の具遊び
- 4, 青空キャンパス

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・紙コップ ・ラップ ・懐中電灯 ・携帯ライト ・白画用紙 ・透明シート
・絵の具 ・筆 ・スポンジ ・空き容器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ お部屋に入った偶然の光が、床や服に反射しゆらゆら七色に動いていることに不思議さを発見し楽しんでいった。
- ・ 光を楽しむことから始め、紙コップの底に切り込みを入れ懐中電灯の光を当ててみた。
- ・ 壁や天井に描いた絵が影絵となり、光の動きを追って遊ぶ。
- ・ 子ども達自ら興味好奇心から、いろいろな遊び方を発見して楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

光：偶然発見した自然の光が動くことに想像力と探求心が膨らみ、「みつけた！」
「あれ！いなくなった」など夢中で光を追っていた。

色：光から色への興味へと変化し、さまざまな色に興味を示し色を覚えていった。
絵の具遊びでは、様々な色を塗る感覚遊び、感触遊びをそれぞれが楽しんだ。



お砂が赤になったね！
なんで赤なんだろ



あれ？洋服が光った！
こんなところが光ったよ



いっぱい色が
ついたね・・・

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の何気ない発見や探求心に合わせて遊びを展開すると、光遊びを通して色々な色へ関心が高まっていった。子ども達を目線で楽しんでいることを保育者が共有しながら大切にすることを積み重ね、日々子ども達は遊びを通して仲間意識が芽生え、言葉の獲得や知識の深まりに繋がっていったと考える。探求心をくすぐる場面はいたるところにあり、既製の玩具にはない自然物の光や色への興味や発見から、子ども達がワクワク楽しんだり喜んでいく姿を目にした時、保育者自信もワクワクしていることを実感できたことが大きな気づきとなった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具を使って遊んでみよう

<テーマの設定理由>

夏の制作で、絵の具を使って手形・足形をとった。絵の具の温度、匂い、色、感触など五感で色々なことを感じとっていた子ども達。その後も絵の具を使っての活動に興味を示し、スタンプや吹き絵などを行う中で興味関心をもって自由に絵の具を使いたい気持ちが大きくなっていった。そこで子ども達が主体的に遊ぶ効果的な方法を考え、絵の具を使った好奇心・探求心を育てたいと考えた。

2. 活動スケジュール

手形足形→絵本から三原色や混ざりあうと変化することを知る。
→色水遊び→色が混ざりあう変化を体験→
ごっこ遊びに発展（ジュース作り、スタンプ、模様）→
部屋全体に模造紙や段ボールを貼り様々な道具を使って絵の具遊び→ボディペンティング

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵の具・模造紙・緩衝材・野菜・筆・スポイト・ローラー・テニスボール
トレイ・紙皿・和紙・段ボール・プラコップ・スプーン・へら・スポンジ・洗濯ばさみ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

色が混ざり合うことで、色の変化を知り五感などを使って自由に表現し遊びが広がっていくことを楽しむ。

質感の違う紙や素材を使うことで、絵の具のつき方が違うことや筆、指を使いながら表現する楽しさを感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・子ども達から「絵の具またしたい」「あしたする?」「スタンプしたい!」など次の遊びを心待ちにしている子どもの声や気持ちを大切に次の遊びへ発展させていった。

・子どもの遊ぶ姿や思いを汲み取りながら、様々な素材や道具を用意することで、たくさん色に興味を持ち、いろいろな色を混ぜ合わせて変化させることを楽しむ姿が見られるようになっていった。

・手についた絵具を「きもちいい」「みてみて」と嬉しそうに保育者に見せ、子ども同士で「いっしょだね」「ペタペタしよ」など模造紙の手形や模様を嬉しそうに楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の興味関心のある活動は一日では終わらず、何日にも渡って繰り返されていくことがわかった。子ども達それぞれが、その活動で使用する素材と向き合い、自分なりの楽しみ方を探求していき「なぜ?」「どうして?」と感じることを大事に過ごした。自分で考え様々な物を使い、主体的に遊ぶ姿を見て「五感」を使って遊ぶことができる絵の具は、子ども達の刺激となって探求につながったと感じた。また保育者自身も子ども達の興味関心から環境を深掘りしていくことが重要と感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光の探求

<テーマの設定理由>

日頃から光や影などの自然現象を見つけては、その不思議さや面白さ、輝きを感じ取っていることに気づいた。環境をデザインした時、子ども達はどのように遊びを広げ、発展させていくのかを探っていきたいと思った。

2. 活動スケジュール

8月 クラス会議（テーマ決め、活動内容検討）
9月 光遊び（ライトテーブル、懐中電灯、カラフル望遠鏡）
10月 光遊び（ステンドグラス、プロジェクター）
11月 まとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ライトテーブル 薄暗い場所に設置
- ・カラフル望遠鏡 4色のセロハンを細く切って使用
- ・段ボール
- ・プロジェクター 光を壁に映し出す・ハロウィンでは仮装して映し出す。
- ・ステンドグラス

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・ライトテーブル遊び→カラフル望遠鏡制作と遊び→型抜き段ボールと懐中電灯
→プロジェクターに映る世界→ステンドグラス制作と光の探求
→プロジェクターでハロウィン

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

今までやったことのない活動で、毎回子ども達は驚きと興奮の連続だった。子ども達自ら「こうやったらどうなるんだろう？」という興味関心意欲が掻き立てられ、色々な遊びへと発展していった。子ども達の問いかけに対しての意見や、次やってみたいことが沢山出てきたので子どもたちと保育者が一体となって活動を継続することができた。



ライトを後ろから当てたら、どうなるかな？

(セロハンがひらひら落ちる様子を見て) きれい～



鳥さんが、いっぱい飛んでるよ。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

懐中電灯やプロジェクターを用いた光遊びは、子ども達の日常生活で触れる物ではなかったので、興味関心が高まり、遊びの発展も保育者の創造を超えていた。光遊びは刺激的で感動的だったことから、子ども達自ら遊びを展開させていた。保育者自身も光遊びの興味深さを感じ、子ども達と一緒に探求してこれたことも大きな収穫になった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0991
施設名	島根いちい保育園
施設所在地	東京都足立区
法人名	社会福祉法人 水の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

海って？
「サメについて」

<テーマの設定理由>

夏に、子ども達が海について話している会話から、クラスで海について考える機会を設けた。サメに興味のある子が多く、海の生き物に興味を示していたので、サメについてみんなで探求してみたいと考えた。

2. 活動スケジュール

保育WEBを用いてイメージを話し合う→グループごと1種類のサメについて詳しく調べ発表し合う→映像で見て疑問に感じたサメの大きさをメジャーで測ってみよう→実寸大のイタチザメの制作をする→保育室を海の世界にする→たくさんのお友達を部屋に招待する→水族館に行って本物のサメを見てみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

サメのイラストを保育室に掲示し、海やサメに関する図鑑や絵本を置いておく。
・メジャー、絵具、折り紙、段ボール、キッチンペーパー等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

実寸大のサメを作ろう

メジャーで大きさを測り、ダンボールを使用する。

新聞紙等準備し子ども達のイメージから、意見を出し合い作っていった。

グループごとに、いろいろなアイディアが出て話し合いを重ね大きなサメを完成させた。

水族館に行き、本物のサメが水の中で泳いでいる姿を見て感動している姿が見られた。

お楽しみ会（発表会）で、継続して取り組んできたサメについて保護者に知らせ終了する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

サメのイメージが怖い生き物だった子ども達だったが、様々なサメをよく観察していく中で「かわいい」などイメージの変化が見られた。子ども同士で、なぜ可愛いのか考えると、それぞれにサメに対しての気づきがあった。興味関心が大きくなると「泳いでいる姿が見たい」と声が上がリスクリーンに映し出した。泳ぐスピード感やサメの動きを見て次は水族館で実物が見てみたい！と意見が出て子ども達の声を活動に反映し継続していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達のやってみたい！の気持ちを実現するためには、どのような環境を整えていったらいいのか、深く考えるきっかけになった。子ども達同士の話し合いの場を多く設けることで子どもからの声や気づきに耳を傾け、一緒に活動を作り上げる充実感を感じることができた。実際に泳いでいるサメを水族館に見学に行き、保護者の方にもお楽しみ会（発表会）で継続している活動を見て頂けたことは、日々取り組んできた保育を知っていただく機会になったと感じている。